

新型コロナウイルス感染症対処の概要



令和2年4月7日(火)
自衛隊中央病院



説明項目

- 1 災害派遣活動の概要
- 2 患者受入の態勢構想
- 3 患者受入の推移と活動経過
- 4 新型コロナウイルス対応における教訓
- 5 その他の感染防止施策等について

1 災害派遣活動の概要

病院の態勢	○ 2種非常勤務態勢（令和2年1月30日～同年3月16日）
陽性患者対応 （疑似症含む）	○ 活動期間中、128名に対応（クルーズ船、チャーター機以外含む） ○ クルーズ船乗員乗客：109名（外国人16の国・地域67名） （退院 最終2.3.17） ○ 政府チャーター機による帰国者：11名（退院） ○ 保健所からの紹介等（屋形船等）：8名（6名退院）
検疫支援	○ 看護官が政府チャーター機内において検疫支援 （第2・3便：2名、第4・5便：2名）
調剤支援	○ 薬剤官1名がクルーズ船内において調剤支援（2.2.10～2.2.22）
PCR検査	○ 中央病院独自で入院患者の検査が実施できる態勢を整備完了（2.2.24～） ○ PCR検査実績 約520件



車いす患者受入



患者受付



重症患者対応準備



患者退院支援

2 患者受入の態勢構想

1 病院方針

病院は、患者の増加に伴い、段階的に病床を拡張し受入態勢を確立する。
この際、新型コロナウイルス感染症患者は、同部屋を追求する。

2 指導要領

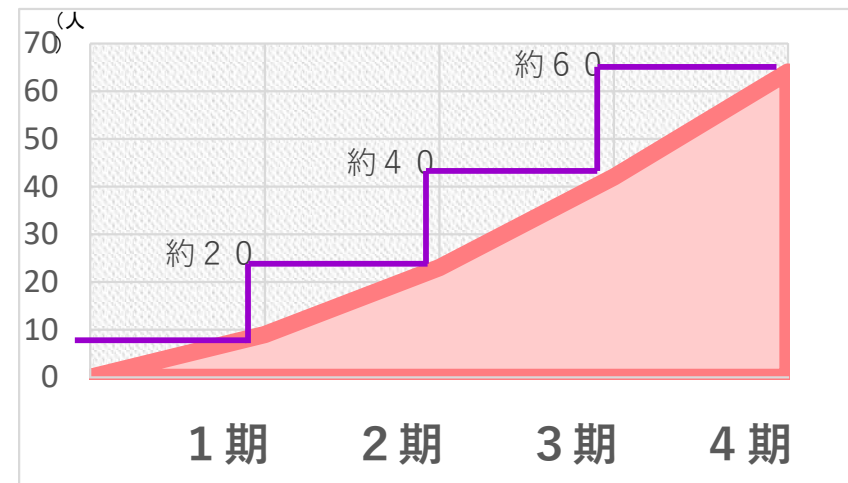
- | | | |
|---------|------------|------------------------|
| (1) 第1期 | 8西病棟感染翼を運用 | (平素の態勢維持) |
| (2) 第2期 | 8病棟全体を運用 | (小児科入院患者受入を停止、支援要請を準備) |
| (3) 第3期 | 9西病棟を運用 | (節目検診中止、救急外来縮小、支援受け) |
| (4) 第4期 | 7西病棟を運用 | (救急外来停止、追加支援受け) |

各期の区分

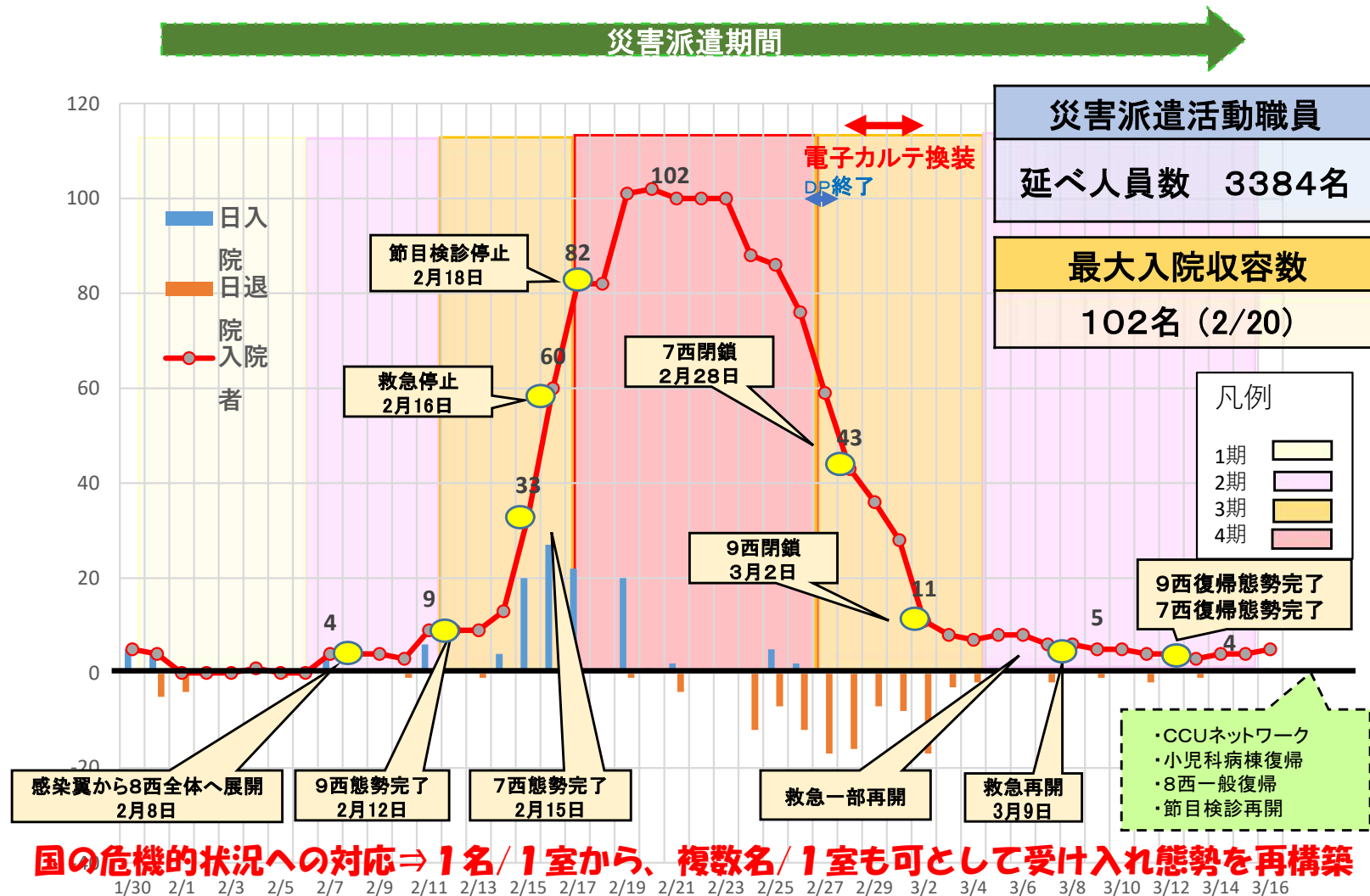
期区分	内容	病床※	要領
1期	8階西感染症翼	約10	専属勤務員のみ
2期	8階西病棟	約20	8西勤務員のみ
3期	9階西病棟	約40	節目検診中止 7東看護師等で対応
4期	7階西病棟	約60	救急停止 7西及び支援勤務員

※ 病床数は、患者重症度により変化

各期の受入推移



3 患者受入の推移と活動経過



4 新型コロナウイルス対応における教訓

- (1) 先行的かつ継続的な指揮・幕僚活動
- (2) 感染症患者への対応
- (3) 多数の外国人入院患者への対応
- (4) 全国からの医療従事者及び給食勤務員の支援受け
- (5) 医療安全評価官の活動

4-(1) 先行的かつ継続的な指揮・幕僚活動

活動内容	○ 指揮所の開設・運営 ○ 2種勤務態勢の維持 ○ <u>作戦会議、MR及びERを先行的かつ継続的に実施し、迅速な病院としての</u> ○ <u>意思決定、直面する課題の解決・改善及び情報の収集・共有・発信を実施</u> ○ 上級部隊、各方面総監部、各自衛隊病院に対して中央病院の活動を発信 ○ 神奈川県対策本部や東方総監部に<u>連絡幹部を派遣し情報の収集・提供を実施</u>
教訓事項	○ <u>日々のMR・ERは、各部所等の問題点の共有・整理・解決及び病院長の意思決定に極めて重要</u> ○ 部隊等への情報発信や<u>連絡幹部派遣により病院主体的な対応が可能</u>



MR(山本副大臣陪席)2/2



MR(予備自衛官医官参加)3/4



連絡幹部派遣(調整会議参加)

4-(2)-ア 感染症患者への対応

活動内容	○ <u>新型コロナ陽性患者の動線と一般患者、職員の動線を可能な限り区別</u> ○ <u>感染患者対応要員（医官・看護官・作業療法士等）を専従化</u> ○ 勤務員のPPE着脱訓練、N95マスクフィットテスト実施等、<u>个人防护を徹底</u> ○ ICTメンバーによる各種会議・会同での注意喚起、巡回指導等の実施 ○ 各病棟でホットゾーンを明示、清掃もPPE装着のもと感染管理を考慮 ○ 感染病棟で使用したリネン等の洗濯（特殊な袋を用い80℃加熱処理） ○ デイスポーザル食器の活用
教訓事項	○ 関係職員のみならず、<u>全職員の感染防止意識向上が重要</u> ○ <u>病院の施設の特性に応じた動線の確保及びゾーンの設定が必要</u> ○ 清掃方法に応じた掃除用具の調達



7西ホットゾーン設定



ホットゾーンでのカルテ入力



重症患者処置準備
(電動ファン付呼吸用防護衣)

4-(2)-イ 感染症患者への対応(衛生資材等)

活動内容	○ 感染病棟におけるポータブル撮影 ○ 医療用備品及び消耗品の調達及びレンタル 調 達 パルスオキシメーター、血圧計、マックグラス喉頭鏡 レンタル 生体情報監視装置、熱式加湿器 ○ 感染病棟で使用した衛生器材の洗浄およびホルマリン消毒作業
教訓事項	○ 感染病棟内での撮影に係わる業務要領・行動基準の概成 →感染病棟5名の胸部正面(坐位)撮影に約 90分 ○ 感染症患者受け入れ時に必要な機材の確認、 →生体情報監視装置、専用ポータブル撮影装置やPCR機材等



ポータブルX線撮影装置



高詳細モニター



器材を消毒器に挿入

4-(3) 多数の外国人入院患者への対応

活動内容	○ <u>入院患者の過半数が外国人で診療に多大な影響</u>（特にナースコール対応） →ポケトーク等、<u>通訳支援により、意思の疎通の円滑化</u> ○ 16の国・地域の大使館への病状説明及び差入れ品の調整 ○ 患者のニーズに基づき迅速にサービスを提供（Wi-Fiから食事まで）
教訓事項	○ <u>活動初期から翻訳機器整備及び通訳支援依頼を調整</u> ○ Free Wi-Fiの設置、英語、中国語、スペイン語での各種説明書の整備 ○ 外国患者における電子カルテ入力上の名前と実際の名前（呼び名）に齟齬 →医師が確認した正確な名前を電子カルテに反映、パスポートの掌握



通訳支援



外国人患者の入院



退院手続支援

4-(4) 全国からの医療従事者及び給食勤務員の支援受け

活動内容	○ 各自衛隊病院から医官・看護官及び予備自衛官の支援受け (含 呼吸器内科医官 3 名 <u>感染管理認定看護師 3 名</u>) ○ 患者給食勤務員の支援受け
教訓事項	○ <u>3 コ病棟を感染病棟として展開するには支援受けは必須</u> ○ 経験豊富な支援看護官は対応能力があり、状況判断ができるため、即戦力 ○ 特に、<u>感染管理認定看護師</u>によるPPEの着脱、医療廃棄物管理、手指消毒の徹底、清掃の指導など、適時適切な専門的指導は院内感染予防に極めて有効 ○ 急激な患者増と多様化した給食ニーズ（外国人）への対応に支援受けは必須



一般病棟での包帯交換(予備自衛官)



支援者への激励(統幕長)



給食管理支援激励(陸幕長)

4－(5) 医療安全評価官の活動

活動内容	○ 院内巡視(週1回基準) ・感染症受入病棟:専従勤務員以外立入不可のため病棟師長等からの聞き取りのみ ・事務部門等:態勢変化による医療安全への影響を聞き取りで確認 ○ 日々のインシデント報告の分析・評価及び報告 ・感染症患者受入に関係しているか否かを迅速に分析・評価 ・医療安全管理委員会の速報および日々の作戦会議等での報告で情報を共有
教訓事項	○ 現場巡視指導は、巡視時に気づいたことをその場で指導することができ、管理者等が早めに対応することが可能となり有効 ○ 感染症患者に関するインシデントについては、関係部所と連携して速やかに再発予防策を検討し、院内感染予防態勢に反映 ○ 日々の作戦会議やMR・ERでの情報共有は問題解決に極めて有効



病棟での現場巡回指導



X線撮影室での現場巡回指導

5 その他の感染防止施策等について

- (1) 院内感染対策チーム(ICT)の活動
- (2) 職員の健康観察
- (3) 外来トリアージ

5-(1)-ア 院内感染対策チーム(ICT)の活動

区 分	項 目	処置事項等
当 面	● 新型コロナウイルスに対する感染対策	● 発生した問題解決のための現場調整 ● 「個人防護具の選択」発簡と改訂 職員に適切なサージカルマスク着用を徹底 ● 個人防護具着脱訓練、N95マスクフィットテスト実施【新所属者等へ順次実施】 診療、派遣職員、支援要員 * 依頼に基づき、自衛隊部隊や近傍消防署隊員への個人防護具着脱訓練、N95マスクフィットテストを担当 ◆ 連携病院、自衛隊病院、部隊、医務室からの感染管理に関する相談受け ◆ 診療科別感染対策計画への相談受けと調整 ● 他の第一種指定医療機関との情報共有
	● 病院職員等へ正しい感染対策知識の普及	● ICTニュース発簡・掲示・配布 ◆ 市中感染防止について注意喚起
将 来	○ 病院勤務員発生時対応	○ 積極的疫学調査と接触者リスト作成（保健所と連携）
問題点	○ 院内感染の危険性増大	◆ 環境消毒と手指衛生等、基本の徹底

● 実施中 ◆ 実施済み ○ 検討中

5-(1)-イ COVID-19(新型コロナウイルス感染症)に対する個人防護具の選択について

- 患者本人にはサージカルマスクを着用させることを原則とする
- 標準予防策に加え、接触・飛沫、手技により空気感染予防策の必要がある。
中央病院では「新型インフルエンザ・MERS」患者対応時の個人防護具を装着して、受入を実施する
- 確定例・疑い例とも同じ個人防護具を選択する

部課等	8 西病棟 9 西病棟	救急 外来	放射線 技術課	医事課	総務班 病院当直	管理課	
主な業務	患者診療（病室、測定室など）、看護、レントゲン・CT撮影、検検体採取等			患者受付	患者誘導	リネン洗濯 (洗濯工場)	車両での搬送
必要な 個人防護	・N95マスク ・フェイスシールド ・ディスポガウン ・ディスポ手袋 ・ディスポキャップ 《眼の防護のためフェイスシールドまたはゴーグルを使用する》 			・サージカルマスク 《患者と直接の接触がない受付等。誘導時に空気感染をひきおこす手技は行なわない》 	・エプロン ・サージカルマスク ・ディスポ手袋 《通常の汚染リネンを扱う防護具》 	【医療従事者の搬送】 サージカルマスク 《患者との接触がないので特別なものは不要》 【COVID-19患者の搬送】 <u>ドライバー</u> ：N95 マスク 《患者と2m以上離れている場合。距離が近い場合は眼の保護を加える》 <u>患者ケアを担当</u> （ドライバー以外の同乗者全員） ・N95マスク ・フェイスシールド ・ディスポガウン ・ディスポ手袋 ・ディスポキャップ	
備考	PCR陰性が確認されたら ・サージカルマスク ・眼の保護は行う。 			・飛沫感染予防のため、2 m以内で患者と会話する場合はサージカルマスクの着用を推奨する。			

5-(2) 職員の健康観察

目的	○ 職員全員に検温を実施・報告させ、有症状者を早期に発見して治療等を行い、院内感染防止を図る。
要領	○ 毎朝全職員が検温を行い、その結果を保健管理センターに通報 保健管理センターが集計・管理を実施 ○ 国内流行期を念頭に、家族の健康状態についても確認

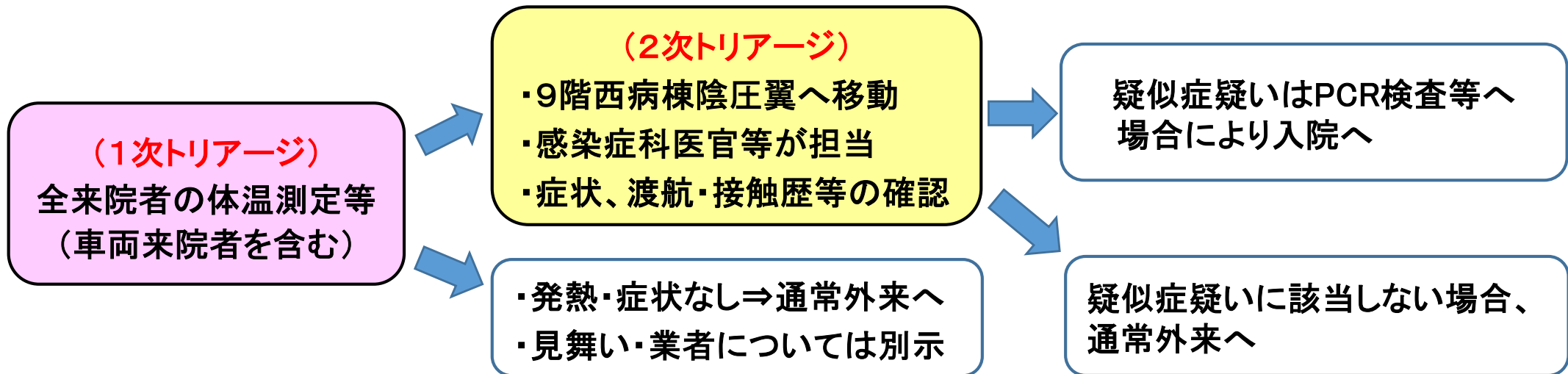
健康観察結果報告 令和2年〇月△日(×曜日)1800現在 (単位:人) 抜粋

部等	課等	報告者数	有 症 状 者		部等	課等	報告者数	有 症 状 者	
			合計 (感染病棟勤務者等)	備考				合計 (感染病棟勤務者等)	備考
企画室		〇〇	0		教研部	研究課	〇〇	0(0)	
医療安全評価官		〇〇	0			教訓課	〇〇	0(0)	
総務部	総務課	〇〇	0			研修医等	〇〇	0(0)	
	医事課	〇〇	0		看護部	1看課	〇〇	2(0)	咽頭痛x2
	会計課	〇〇	0			2看課	〇〇	6(1)	発熱(38.0℃)×1 咽頭痛x3、頭痛x1 下痢x1、鼻汁x1
	管理課	〇〇	0						
診療科		〇〇	1(0)	微熱・めまいx1	合 計		△△△	9(1)	疑似症疑いなし

5-(3)-ア 外来トライアージの概要

1 目 的	市中感染発生増加に伴い、来院者（患者・見舞い・業者等）の検温等を実施して有熱者等を区分し、院内感染防止を図る。
2 時 期	令和2年3月11日（月）～当分の間

外来トライアージの要領



1次トライアージ ↓ 2次トライアージ	○ 体温が37.5℃以上ある方 ○ 呼吸器症状がある方 ○ 渡航・接触・施設利用等、心配で受診した方
---------------------------	--

5-(3)-イ 外来トライアージの実施状況

外来トライアージ実績について

※トライアージ実施時間は0600～1715

4月3日1700現在

実施日		1日外来患者数	2次トライアージ者数 (外来受診者比)	PCR検体採取数 (2次トライアージ者比)
3月11日～27日		6743	56(0.8%)	16(28.5%)
3月30日	月	433	11(2.5%)	3(27.2%)
3月31日	火	541	5(0.9%)	2(40.0%)
4月 1日	水	289	2(0.6%)	1(50.0%)
4月 2日	木	308	13(4.2%)	3(27.2%)
4月 3日	金	496	11[2.2%]	4(36.3%)

※夜間救急外来(救急外来陰圧室)等と合わせ、PCR検査を37名に実施して陽性は5例(13.5%)



外来トライアージ設置・運用
(一次トライアージ)



来院者の体温測定



車両での来院者の体温測定



9西病棟トライアージ設置・運用
(二次トライアージ)